

現在の米国・カナダの国内規制及び日本向け輸出プログラムにより管理された
20カ月齢以下の牛の食肉および内臓(米国、カナダ)
のリスクと全年齢の食肉および内臓(日本)のリスク
の比較

論点メモ

国立医薬品食品衛生研究所

食品衛生管理部

山本茂貴

日本のBSEリスク評価

- 20カ月齢以下を検査した場合としない場合のリスクの比較
- 日本のBSEリスク
 - 20カ月齢以下のBSEに関する定性的リスク評価
 - 生体牛と食肉について判定
 - 全年齢も一応評価可能
 - OIEの方法
 - GBR: 全年齢を含む場合のリスク

生 体 牛

- 侵入リスク
 - 生体牛
 - 肉骨粉
 - 動物性油脂
- 飼料規制
 - 遵守度、交差汚染
- プリオンの生体内分布(SRMに99.4%含まれる)
- 疑似患畜及び死亡牛の検査
 - サーベイランス結果

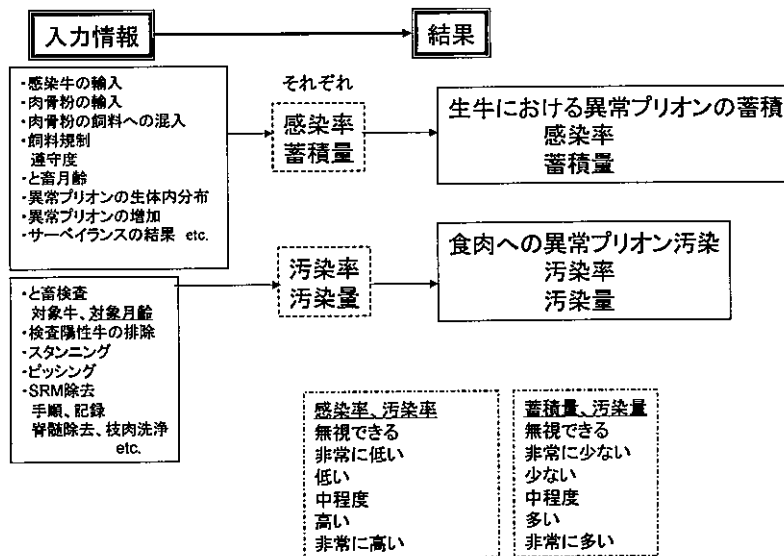
食 肉

- SRM除去/汚染防止
 - スタンニング
 - ピッシング(日本のみ約80%実施)
 - SRM除去(全頭対象)
 - せき髄組織の飛散防止
 - 衛生標準作業手順(SSOP)
- BSE検査
 - ELISAテスト、ウエスタンブロット、免疫組織化学
- その他
 - トレーサビリティ
 - 検査陽性牛の排除

BSEリスク比較

- 20ヵ月齢以下の牛の食肉および内臓(米国、カナダ)のリスクと
- 全年齢の食肉および内臓(日本)のリスクを比較
- 生体牛: 感染率と蓄積量、食肉: 汚染率と汚染量
 - 生体牛
 - 日本 感染率は非常に低い、BSEプリオン蓄積量は少ない
 - 米国 感染率?、蓄積量?
 - カナダ 感染率?、蓄積量?
 - 食肉
 - 日本 汚染率は非常に低い、汚染量は無視できる～非常に少ない
 - 米国 汚染率?、蓄積量?
 - カナダ 汚染率?、蓄積量?
- 定性的リスク評価による比較—基準をどう考えるか

各入力情報のランク付けと結果の判定



・生体牛	
肉牛	
乳牛雄(肥育?)	
乳牛雌	
・感染牛の輸入	
輸入元	
イギリス	
アイルランド	
カナダ	
・肉骨粉の作り方(加熱など)	
肉骨粉の量	
餌への混入	
・肉骨粉の輸入	
輸入元	
イギリス	
アイルランド	
カナダ	
・餌への使用状況	
牛用	
豚・鶏用	
・肉骨粉の飼料への混入	
SRMの除去率	
ラインの分離状況	
・飼料規制	
遵守度	
牛への使用	
豚、鶏用の牛への使用	
・と畜月齢	
20ヶ月齢以下の数	
21か月齢以上	
SRMの除去率	
レンダーリングの方法	
肉骨粉の量	
餌への使用状況	
・異常プリオンの生体内分布	
・異常プリオンの増加	
・サーベイランスの結果	
検査対象;検査率	
検査方法	
検査感度	
検査特異度	